

生物学者西村真琴（1883-1956）とロボット学天則

1928年、圧縮空気を使って手や頭を動かす人形・人造人間「学天則」を制作した西村真琴の略歴、関係文献等を紹介します。

関係文献は毎日新聞社社史編集室（大阪市北区）が収集したもので、大阪市立科学館では同社の協力によりそれらを複製し、収蔵しています。改めて同社社史編集室のご協力を感謝致します。

あわせて、かつて西村に教えを受けたことがある前田種子さん（大阪市立科学館友の会会員）所蔵の写真と簡単な年譜をご紹介します。

大阪市立科学館では、わが国で初めてロボットという概念の下で作られた学天則の意義を考えて戴こうと、実物大の学天則を制作し、展示しています。学天則とあわせて発明者西村真琴について、広く紹介したいと思っています。



なお、西村真琴については、

畑中圭一著「地球は人間だけのものではない エコロジスト西村真琴の生涯」

（2008、発行：ゆいぽおと）

が詳しく、精確であり、西村真琴理解には必読の文献です。また、学天則については

荒俣宏著「大東亜科学綺譚」

（1991、筑摩書房。文庫版もある）

が詳しいので、これを参照するようお勧めします。



西村真琴は1883年（明治16年）、長野県松本市で生まれ、広島高師を終えた後、南満医学堂の生物学教授となりましたが、その後、コロンビア大学に留学し博士号を得て帰国しました。1921年、創立間なしの北海道帝国大学の水産学の教授になったものの、閉塞的な帝大に嫌気がさしたらしく、1927年、大阪毎日新聞社に転じ、翌年、ロボット「学天則」を制作、展示しました。1945年、退社後、大阪府豊中市議員を経て、神戸頌栄短大で生物学、保育等を教授するなど、孤児院運営や保育等の社会事業に貢献しました。その間、中国人孤児を預かったり、作家魯迅らと交流するな

ど、中日友好にも尽力しました。また、次男晃（1923-1997）は俳優として活躍し、TVドラマの水戸黄門役で広く知られていました。

保育学校

前田種子さんはすでに幼児教育に携わっていたが、当時、四天王寺の近くにあった保育学校にスキルアップのため園から派遣されていて、西村の教えを受けた。戦時下の食料難のことであり、西村は実習と称して学生達を自宅に招き、自宅前の畑に植えていた芋を掘らせては振舞っていたという。大変ありがたいことだった、と前田さんは言う。

大阪市立科学館・加藤（2002）、星学館・データセンター（2020）